

短梢仕立て芽かき講習会資料 (30)

平成 30 年 5 月

1. 生育状況 (平岡ぶどうセンター周辺)

	南部	北部	備考
巨峰発芽	4/20 頃	4/21 頃	平年 4/26、昨年 4/27、H28 4/20
巨峰展葉	4/23 頃	4/25 頃	平年 5/1、昨年 5/2、H28 4/22
巨峰開花	5/27 ?	5/28 ?	平年 6/8、昨年 6/9、H28 5/28
シャインマスカット発芽	4/25 頃	4/27 頃	平年 5/1、昨年 5/1、H28 4/27
シャインマスカット展葉	4/29 頃	5/1 頃	平年 5/8、昨年 5/8、H28 4/29
シャインマスカット開花	6/4 ?	6/5 ?	平年 6/15、昨年 6/15?、H28 6/4

2. 芽かき

《短梢仕立ての芽かきについて》

芽かき時期

- ・遅霜の心配がなくなった後 (5月10日頃～ ※展葉3～4枚頃にあたる)
- ・誘引が終わった後 (枝折れが心配な方推奨、誘引できたら他の芽は欠く)

芽かき方法

- ① 副芽の芽かき (副芽を手でかくと主芽が根元から折れる恐れ有。ハサミで切除推奨)
- ② 芽座から複数発芽している場合はなるべく基部に戻すように芽かきを実施
- ③ 花穂のある枝を残す

短梢仕立て芽かき事例集

Q1) 芽座の間隔が広い場合

- ・1つの芽座から新梢を2つ程度発生させて空間を埋める (混みすぎ注意!)
- ・主枝の反対側の芽座から立ち枝を誘引して空間を埋める。

Q2) 2芽せん定で先端が強く発生し、基の新梢が弱い場合

- ・本年度は先端を利用し、基部の新梢は葉枚数確保・次年度利用枝として空枝にする。
- ・先端の枝の生長点を止めて伸長しにくくし、2番目の新梢に養分を促す。

Q3) 芽座は長く伸び、主枝から離れている場合 (右ページに参考写真あり)

- ・先端の強い枝に成らせ、基部に近い位置で発生したものを空枝とする (次年度利用)
- ・基部に適度な枝が発生していれば、先端を除去して、基部の枝で房を成らす。

Q4) 2～3芽連続して禿げあがってしまった場合 (芽座・枝の枯れこみ)

- ・隣の芽座から禿げあがってしまった芽座の方向に伸びる枝を残して芽を確保する。
- ・隣の芽座の新梢を1つ多く発生させ、禿げてしまった部分を埋める。

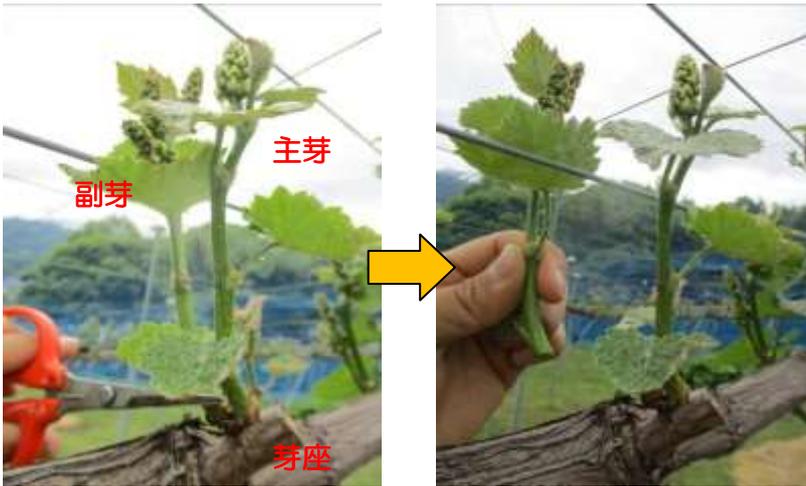
Q5) ナガノパープルの場合

- ・新梢が折れやすいため、心配な方は、誘引して1日待ってから芽かきを実施する。

Q6) 主枝延長枝の選び方

- ・樹勢が強いと主枝延長枝の先端の芽が強く発生しやすい (扁平形、親指の太さ) 先端が極端に強く出ている場合はあえて芽かきをせず、先端から2～3番目の中庸な枝 (直径10～15cm、人差し指の太さ) を次年度の延長枝として利用する。

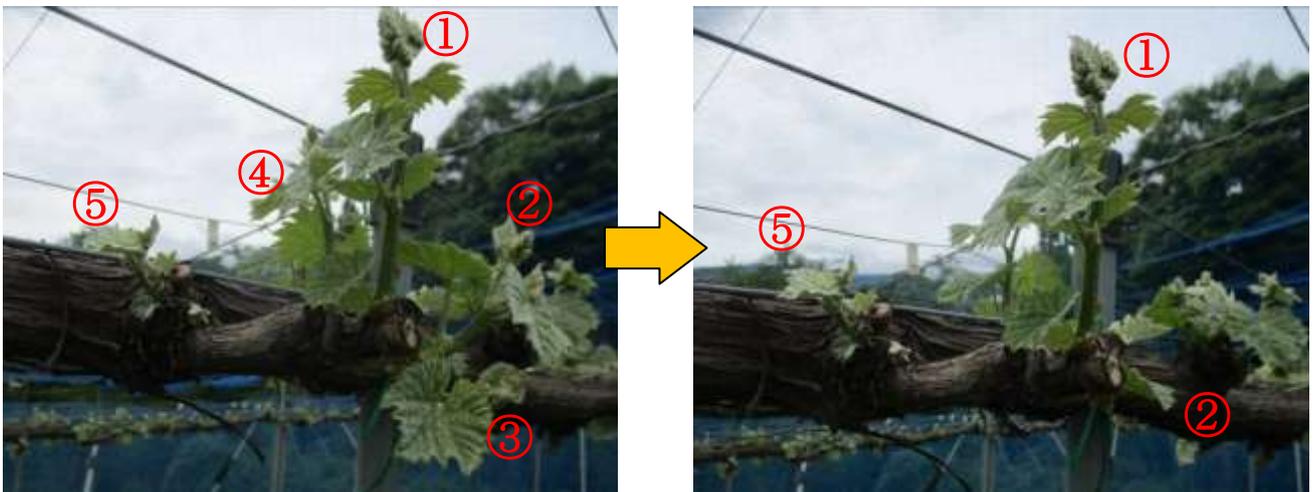
短梢仕立て芽かき例(写真付き)



(注意！！)

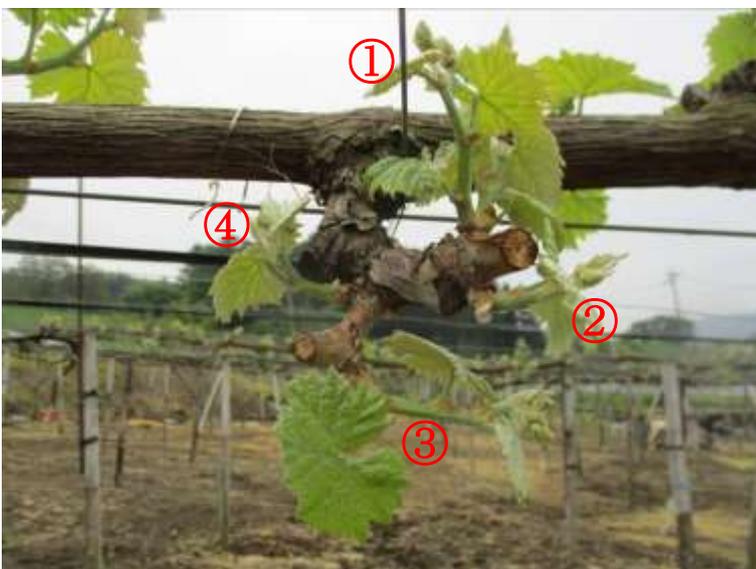
手で芽かきを行うと、残した新梢が折れやすくなる恐れがあるため、ハサミを使って副芽を切除した方が良い。

写真では誘引しやすい方を残した



写真：ナガノパープル

- ① H30 年度に房を成らせる枝。副芽を切除。
- ② 予備として残した。①が欠けてしまった場合の予備。副芽利用。
- ③ 発生位置が悪かったため切除（芽座の下側）。
- ④ 先端の新梢①と競合しそうなため切除。他の芽座の生育状況によっては利用可能。
- ⑤ 芽座の基部から発生し、次年度切り戻しが望めそうなため残した。（葉枚数も稼げる）



写真：シャインマスカット

- ① 利用する新梢。副梢欠く。
- ② 予備として残しても良い。
- ③ 発生位置が悪いため芽かき。
- ④ 空枝として残しても良い。
（葉枚数確保・次年度利用）
または芽座間が広いので利用も可能（成らせすぎ注意！）

3. ストマイ液剤およびフラスター液剤について

【ストマイ液剤 20】

散布時期 満開 14 日前～満開始期

散布濃度 1,000 倍

注意事項 有核栽培の園地がある場合はドリフトに十分注意する。
散布時期の遅れに注意し、果房に十分かかるように散布する。

◎種なしぶどうについては必ずストマイ液剤を散布する

【フラスター液剤】

散布時期 展葉9～11 枚（6 月上旬頃）

散布濃度・量 フラスター3 本/10a あたり（使用量の目安）

SS 散布 1,000 倍 300 ㍓/手散布 500 倍 150 ㍓

◎品種により、フラスターの散布倍率が違うので注意する

4. フラスター液剤の登録拡大について（30.3.30 登録拡大）

■適用作物名及び使用方法

（2018 年 3 月 30 日現在）

作物名 (品種名)		使用目的	使用時期	希釈倍数 (倍)	使用液量 (㍓/10a)	本剤およびメピコートクロリドを含む 農薬の総使用回数	使用方法		
ぶどう	巨峰 露地栽培	着粒増加 新梢伸長抑制	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)	1,000	300	2回以内	散布		
				施設栽培					
	巨峰系4倍体品種 (巨峰、ピオーネを除く)			500～800	100～150				
	2倍体米国系品種			1,000～2,000	500～800				
	3倍体品種								
	2倍体欧州系品種 (シャインマスカットを除く)			500～800	満開10～40日後			500	150
	ピオーネ								
	シャインマスカット			着粒増加	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)			1,000～2,000	100～150
				新梢伸長抑制	満開10～40日後			500	150
	デラウェア			露地栽培	新梢展開葉 7～11枚時 (開花始期まで)			1,500～2,000	200～250
施設栽培		800～1,000	100～150						

使用方法

対象：シャインマスカット・ピオーネ

使用時期：満開 10～40 日後（推奨：満開 20～25 日後 ※2 回目ジベ処理ころ）

希釈倍率：500 倍

散布量：150 ㍓/10a あたり

使用回数：2 回以内

使用目的

- ①新梢伸長抑制 ……摘心作業軽減（摘粒作業に集中できる⇒粒肥大につながる！）
- ②果粒肥大促進 ……新梢伸長が抑制され、養分が果粒に回り、肥大を図れる可能性

注意事項

- ◇ 樹勢が弱い樹には使用を控える（弱いまま伸長が止まる恐れアリ）
- ◇ 高温日が続くと新梢伸長抑制効果の持続期間が短くなることがあります。

5. 今後の防除について「0（ゼロ）のつく日はぶどう防除の日（10日間隔の散布）」

散布時期	日付(予想)	使用農薬	倍率	主要対象病害虫
展葉6枚頃	5/7頃～	オザイト水和剤	800倍	晩腐病・べと病・黒とう病
展葉9枚頃	5/17頃～	ド-シヤス707ブル	2000倍	晩腐病・べと病・黒とう病
開花3日前	5/27頃～	フルツイバ - オザイト水和剤 オトラン水和剤	1500倍 800倍 1500倍	晩腐病・べと病・黒とう病 灰色かび病・スリップス類

《コウモリガ対策》

ガットサイドS（1.5倍、21日前まで、2回）5月上旬から塗布

薬剤散布の際は幹にもタップリ散布する（主幹害虫対策等）

《カイガラムシ類・クビアカスカシバ対策》

スタークル顆粒水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤)（2倍、幼果期まで、塗布は1回）

水：薬剤＝1：1で混ぜ、主幹部の50cm程度の幅で1周塗布する。

1樹当り20～40g

カイガラムシ類を防除する場合は、4月中旬～下旬に塗布

クビアカスカシバを防除する場合は、5月上旬～中旬に塗布